



東京都島しょ農林水産総合センター八丈事業所  
<https://www.ifarc.metro.tokyo.lg.jp>

## 2022年のハマトビウオ漁



### 2022年の水揚状況

八丈島において、ハマトビウオは「春トビ」という通称名で親しまれ、町のシンボルにもなっています。2022年のハマトビウオ漁は3月29日に始まり、5月12日の水揚げを最後に約1ヶ月半におよんだ漁が終わりました。

八丈島におけるハマトビウオの水揚げ尾数・水揚げ尾数上位3隻の延べ出漁隻数・CPUE（1隻1日当たりの水揚げ尾数）を表1に、2022年の水揚げ尾数の推移とCPUEを図1に示しました。2022年は、水揚げ尾数は約1.1万尾となり、2012年以降では2020年に次いで2番目に少なく、過去10年平均のわずか3%の値でした。延べ出漁隻数は、過去10年平均の24%の23隻で、CPUEは同14%の479尾/隻・日となりました。

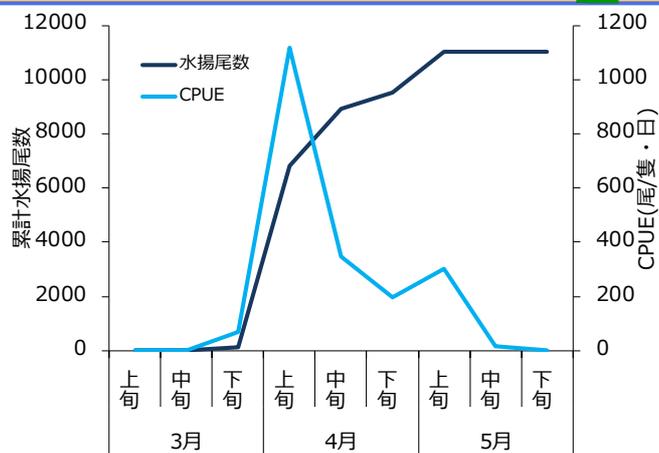


図1 2022年のハマトビウオ水揚げ尾数とCPUEの推移

### 資源状況

八丈島では、1970年から1980年代初めまで、100～150万尾程度の水揚げがありました。1984年から1990年代前半には、水揚げが皆無となった時期がありました。その後、資源は回復傾向にありましたが、再び2020年から、水揚量が極端に減少しています。

2022年の水揚げ尾数が少なかった要因として、魚群の来遊期間が3月下旬から5月上旬付近の約1ヶ月半と例年よりも短い上、来遊した魚群が低密度であったことが考えられます。また、数年前から水揚量が減少していることから、来年以降の状況についても、注意深く見守る必要があります。

表1 八丈島におけるハマトビウオの水揚げ尾数と延べ出漁隻数およびCPUEの推移

漁期	水揚げ尾数 (尾)	延べ出漁隻数 (隻)	CPUE (尾/隻・日)
2012年	572,056	141	4,057
2013年	688,597	135	5,101
2014年	669,435	113	5,924
2015年	342,975	129	2,659
2016年	491,501	101	4,866
2017年	219,833	106	2,074
2018年	358,589	74	4,846
2019年	269,583	109	2,473
2020年	821	6	137
2021年	102,821	49	2,098
10年平均	371,621	96	3,424
2022年	11,022	23	479



図2 ハマトビウオの水揚げ風景